

(かけはし 24 年 2 月号)

園芸実践アドバイス

営農指導課から・・・

園芸作物栽培に関する Q&A とこれからの対策

本年は昨年に並ぶ大雪予報が出ていましたが、幸い積雪はたいしたことも無く推移しています。しかし、日照も少なく、気温は例年より低く推移しております。越冬作物は殆どの地域で顔を出しており、かえって雪の中に埋っているより寒さ当たりの影響が強くなってしまふ恐れがあります。また、2月中旬を過ぎてくると融雪水で畑作物は湿害を受けやすくなりますので、圃場に停滞水が発生しないよう対策を行って下さい。

越冬野菜の管理

タマネギ、ニンニク・・・寒さには強いが、多湿に弱いので圃場排水を徹底してください。2月下旬になってきたら、そさい3号を1a当たり3~4kgを施用し中耕しましょう。

エンドウ、ソラマメ・・・寒風にさらされると生育が停滞するので北風のあたりの強いところでは風除けを考えましょう。融雪後、そさい3号を1a当たり1.5~2kgを施用し中耕しましょう。直播したエンドウは一箇所当たり生育の良い苗を2本程度に選っておきましょう。草丈が20cm位までに支柱を立ててやりましょう。

イチゴ・・・越冬後、赤くなった下葉は掻き取り、ジマンダイセンなどの殺菌剤を散布しておきます。マルチ栽培の場合基本的に追肥は要りませんが、生育が弱い場合は液肥を与えましょう。露地の場合はそさい3号を1a当たり2kg程度施しましょう。

なお、春先の追肥として有機質肥料や油粕、ポカシ肥料などは効きが大変遅いので不向きです。

ハウスの管理

本年は低温で推移しているため、軟弱野菜の生育が悪くなっています。少しでも生育を促進しようと、追肥や灌水を行っている圃場が見られますが、かえって徒長したり、病害を招いたりして商品価値を落としてしまいます。特にほうれん草のベト病は要注意です。また、2~3月になるとケナガコナダニが再び増えてきますので注意し、早目の防除を心がけてください。

ハウレンソウベト病対策・・・ベト病は湿気が高く、空気が停滞していると発生してきます。対策は抵抗性品種を利用することが大切ですが抵抗性のない品種を既に播種されている場合は、先ず第一にハウスの湿度を出来るだけ低下させるような管理を行なうことです。

抵抗性品種を利用する。(トラッド7、クロノスなど)

窒素分をやり過ぎない。(畜糞堆肥の多用は窒素過剰となる)

密植を行なわない。(株内の蒸れが発病促進)

ハウス内の湿度をできるだけ低下させる。

(畦面が湿っている圃場では灌水厳禁、晴天日の換気とハウスサイドの排雪)

なお、実害が少ないため気にされていないケースが殆どですがコカブにもベト病が発生しています。発生がひどくなると外観では分かりませんがベト病菌がカブ(根の中)に入り、根



ハウレンソウのベト病



カブのベト病

の中に小さな黒点を発生させ商品価値を低下させます。防除はランマンフロアブル(3日前まで)が登録されています。(ベト病はコマツナ、シュンギクにも発生します。いずれも多湿が引き金となっています。)
パレイショの準備(浴光催芽)

3月下旬になるとジャガイモの植え付けが始まりますが、浴光催芽を行う場合は2月下旬から3月上旬にかけて準備に入ります。浴光催芽の良い点は萌芽を早くする事で生育を揃え、梅雨前に収穫でき収量も上がります。しかし、種芋の管理が適当でないと芋が萎びたり(特に北アカリは萎び易い)切り口にカビが生えたりします。従って、浴光



芋を重ねず、暖かく光が充分当たる場所におき、しっかりした芽を育てます。

催芽を進めた後、植え付けの5~7日前位に切断して方がトラブルは少なくなります。

その他、冷床育苗(早めに種芋を切断し、育苗箱などに伏せて土を被せ、芽と根を出させてから定植する。)を行なっている農家もあります。

果樹の管理対策

果樹は生育の止まっている冬の間には剪定、防除などを行なっておくことが肝要です。まだ剪定の済んでいない果樹は2月中旬ごろまでに行なっておきましょう。剪定のポイントは枝が込み入っていると風通しが悪くなり、病気も発生しやすくなります。混み合った部分の枝をすかさずように切り落とす。

木の内側に向かって伸びている枝を切り落とす。

長く伸びた枝は半分位に切り詰める。

切断口が一円玉以上位になる場合は、切口にトップジンMペーストなどの殺菌剤入り塗布剤を塗ると治癒が早くなります。

なお、ウメ、モモ、スモモなどは前年に伸びた枝に実がなるので、あまり切りすぎると実がつかなくなりますので、注意して下さい。また、前年秋に肥料を施してない場合は、雪解け後、鶏糞などを5~10kg位、幹から1m~1.5m程度



モモの縮葉病

離れたところにリング状に施用してください(樹の大きさにより適宜増減してください)。

毎年、すす病が発生する樹には、原因となるカイガラムシの防除としてマシン油乳剤を、ウメ、モモなどの葉の縮む病気に対しては石灰硫黄合剤などの散布をしておきましょう。